

アンケート集計（参加者 184名中98名分）

■セミナーを知ったきっかけ

1	国土交通省	19	
2	出演者	8	
3	主催者	33	日本工業経済新聞社 (一社) 全国地域活性化支援機構
4	ホームページ	13	
5	その他	25	建設コンサルタント (CPD) インフラメンテナンス国民会議 全国建設技術センター等協議会 上司からの紹介・社内のお知らせ 非破壊検査工業会

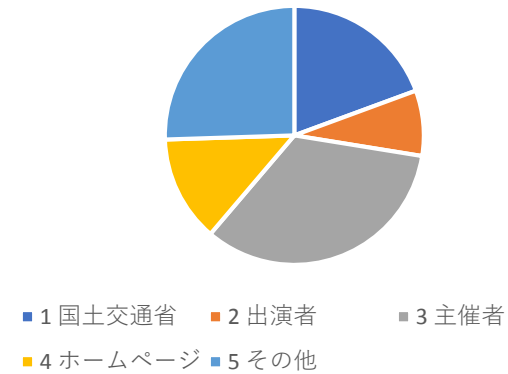
98

■本日のセミナーの内容はいかがでしたか

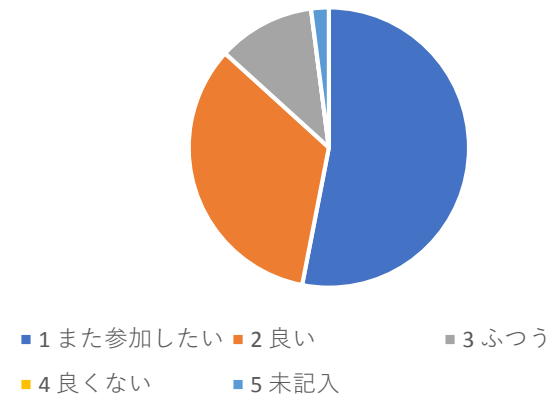
1	また参加したい	52
2	良い	33
3	ふつう	11
4	良くない	0
5	未記入	2

98

セミナーを知ったきっかけ



セミナーの内容



■特に印象に残った内容

- ・ セミナー全体的に業務の参考となった
- ・ 今回のようなセミナーを毎回行っていただきありがとうございます。これからもこのようなセミナーを希望します。
- ・ 継続して開催してほしい
- ・ タイムリーな話題でよかった。

- ・ 基調・特別講演ともに非常に有意義だった。
- ・ 定期点検要領の改訂では、ある程度の情報は聞いていたが、措置の状況等新たな情報が多くあり参考になった
- ・ 点検対象の絞り込み
- ・ リスクと責任の分担について
- ・ III・IV判定のまだ10%程しか対応できていないことはうすうす感じていたが、ここまで進んでいないことに驚いた
- ・ 新技術の活用に向けたルールの運用が自治体判断で行える点。
- ・ 現実問題困難であり、その施策を打とうとしている点。
- ・ 小林氏の講演で改訂ポイントが分かり、今後の点検にいかされると思う。
- ・ 小林様の発表は分かり易く、明解であった。
- ・ 改訂ポイントがよくわかった。但し市町村は点検技術の判断の主体となれないと思います。
- ・ 長期修繕計画の話が少しでいたところ
- ・ 新技術の採用方法について、問題点やメリットがよくわかりました。職場に帰ったら打合せしたいと思いました。
- ・ マニュアルからでは読み取ることが難しい。マニュアル作成者側の考えが生で聞いたことがよかった。
- ・ 改訂の意図を確認することができた。

- ・ AE新技術
- ・ とても参考になりました。
- ・ AE技術では、表面だけでは判断できない内部の損傷が解り非破壊検査に活用できる有効な技術と思う
- ・ イギリスの例 リスクに応じて点検調書を定め丁いること。参考になった。
- ・ 東芝の新技術は工夫次第でコストが大きい可能性があるのでは、関心しました。
- ・ 計器も小型であり、使用してみたいと思った。
- ・ AE技術はユニークで興味があります。
- ・ 用途について詳細を知りたい。
- ・ 開発者から直接話が聞けてAEの内容がよくわかった。

- ・ 新技術の活用について、六郷先生の意見が解りやすかった。
- ・ パネルディスカッションで、国交省の考え方が分かった。
- ・ パネルディスカッションでそれぞれの立場での説明がよくわかり、とても有意であった。
- ・ パネルディスカッションが役に立った。
- ・ パネルディスカッションでは貴重な意見が多く良かった。
- ・ 関係者の率直な考えを聞けて勉強・参考になった。
- ・ 民間の質問もなかなか聞けない分野で参考になった。今回の民間の割合くらいがちょうどよいのかもしれないと感じた
- ・ パネルディスカッションの中で、今回の点検要領の改訂は「新技術は使えないのか？」との疑問の「誤解が解けた」との発言が非常に印象的だった。
- ・
- ・ 貴重な意見が多くて良かった。
- ・ パネルディスカッションの司会進行が良かったです。
- ・ 各パネリストの立場での意見は参考になった
- ・ 産学官の対応に向けた本音を垣間見ることができた
- ・ パネルディスカッション具体性あるとなおよいと思います。

■【自由意見】要望、改善点、指摘事項

- ・一部の渡部氏の講演でも質疑の時間を設けてほしかった。
- ・資料を電子配布してほしい
- ・点検要領の簡素化。年間スケジュールの平準化
- ・AE技術のコスト面の情報もほしい。年間いくらかかるのか
- ・市町村の修繕工事が12%と低い数値はなぜなのか知りたかった。災害や他業務が忙しいとかではない理由はなんだったのかと思った。
- ・点検要領の改訂点をもう少し詳しく説明してほしい。
- ・パネル講演者の資料がほしかった。
- ・長期修繕計画について作成しやすいよう、積算概要などを国交省で作成していただきたい。
- ・自治体の道路管理者もパネリストに入れてほしかった。
- ・もう少し具体的な効率化について聞きたかった。効率化Not=「効果的に実施ではない」かと考えています。点検ばかりに注目が集まっていますが、メンテナンスサイクル全体として近接目視を修繕に生かすぐらいに考えてもいいのでは考えています。
- ・切土斜面及び盛土斜面もH30/7に点検必携が公刊されたのであるから、次回には是非とりあげられたい。
- ・近接目視相当の技術の開発と、その費用対効果を明らかにし、全体でなく、1巡目および2巡目以降の結果も踏まえ、重点的に実施することで費用を抑えることが可能ではないか
- ・新技術と国レベルの長大橋を対象としているかもしれないが、市町は短い橋が大部分だと思われる。その部分を効率化できる技術開発がされることを希望する。
- ・国は直営点検を進めていこうとしていると感じる。自治体は自身が責任を負うことがこわいので、どのレベルの端まで道路点検させるのか決めるのが難しい。
- ・東芝の講演主旨が不明瞭に感じた。また、今後この技術をどのように活用するかも明確でなく実験発表のような印象を受けた。
- ・パネルディスカッションはほとんど参考にならなかった。自治体のパネラーなどを参加頂き、自治体の抱える課題などをコメントしてほしい。
- ・橋梁以外も紹介してほしい
- ・土工構造物に関する話題が少ないように感じた。
- ・橋梁以外も紹介してほしい
- ・点検の効率化を題材としたこのような産学官のセミナーを定期的で開催してほしい
- ・新技術の活用に向けたルールの運用が自治体判断で行える点。
- ・現実問題困難であり、その施策を打とうとしている点。
- ・開場時間を1時間～一時間半前くらいにしてほしい